はんチューナース便り

Vol.26
発行人
看護部長室

認知症マフ

「にぎにぎ」できるように
付けました

マフについては、院内の
「S・K・Sニュースで取り上げています

このマフはスタッフが
作成しました

身体的拘束最小化委員会では
患者さまが安心して過ごせるように
認知症マフ着用の取り組みを行って
います。

急変対応

看護部では、急変時の対応を
新人・ラダー別・管理者向けに
シュミレーション研修しています

新人向け

ラダー別向け

管理者向け

クローズド・ループ・コミュニケーションが大切！！
ACLSのガイドラインでも強調されている蘇生処置中のコミュニケーション手段で
指示内容の復唱と完了報告をチーム内で共有する手法です。

看護部長のひとりごと

今、臨床指導者講習会に2名のスタッフが参加しています。戻ってきてくれて、看護学生さんに「ストレスフリー」な看護実習ができるように、また、実習指導を通して看護を伝えることができたらと思います。指導者の「患者さまのアセスメントをきちんとしてから足浴の必要性を判断して」という対応は、すごく気になります。ベッドサイドで患者さまにかかわり足浴の必要性を感じた体験は「看護したい」という思いの始まりです。「どのような方法なら患者さまにとって良いのか？」「どのような情報が必要なのか」を問いかけ思考を広げるかかわりを大事にしてほしいです。「良い実習にしたい」学校も病院も思いは同じです。未来の仲間をしっかりと育てたい、という真剣な思いを共有できたらよいですね。